

TNBだより



令和6年9月号

教育事務所学校問題サポートチーム学校訪問の際はご対応いただき、ありがとうございます。訪問の際、「愛着 (attachment)」に起因する問題行動についての事例をしばしばお聞きしました。そこで今回は愛着障害を取り上げます。以下、* は引用した文献を示していますのでご参照ください。

愛着障害とは

愛着とは、「特定の人」と結ぶ情緒的な絆（こころの絆）です。愛着障害は、何らかの原因により特定の人との情緒的な絆を結ぶことができなかつたために問題を抱えている状態です。愛着関係は「親でなければ結べないもの」ではないことがポイントです。日々、児童生徒に関わる教師にも愛着の修復が可能なのです。

愛着障害のタイプ

1 抑制タイプ (反応性愛着障害) 人に対して過剰に警戒するタイプ

- ・人にうまく頼ることができない
- ・他人を信用できない
- ・恐怖心や警戒心が強い
- ・人の言葉に深く傷つく
- ・自傷行為がみられる
- ・嘘をつきやすい
- ・体調不良を起こしやすい
- ・ちょっとしたことでひどく落ち込む
- ・自己肯定感が低い
- ・感情の起伏が少ない
- ・謝れない



好かれようとして嫌われるなら、最初から嫌われる方が傷が浅くてすむ・・・

2 脱抑制タイプ (脱抑制対人交流障害) 人に対して過度になれなれしいタイプ

- ・無差別に人に甘えることができる
- ・誰にでもかまわず抱きつく
- ・なれなれしい
- ・周りの注意をひくため大声をだす
- ・人によって態度を変えることはない
- ・落ち着きがない
- ・乱暴な言葉がある
- ・わがままな言動をする



愛着障害 行動の特徴 *1

1 愛情欲求行動

- 1 注目されたいアピール行動 静寂潰し
- 2 愛情試し行動
- 3 愛情欲求エスカレート現象



2 自己防衛

- 1 否認・他責
- 2 自己正当化
- 3 対人暴言・暴力



3 自己評価の低さ



発達障害と愛着障害の違い

- 1 注意欠如・多動症 (ADHD) の多動は何をしても、どんな感情になろうとも「いつも」多動です。
- 2 愛着障害の多動は感情の問題が原因なので「いつも」生じるものではありません。ネガティブな感情が充満していたり、興奮状態では多動となります。つまり、多動の現れ方にムラがあります。
- 3 自閉症パケラムでは「ここにいればいい・これをしていればいい」という居場所感があれば多動ではありません。一方、急に予定が変更された場合は多動となります。

愛着修復のプロセス キーパーソンから始まりキーパーソンで終わる！

愛着障害の支援は、誰かがキーパーソンになることから始まります。キーパーソンとは、子どもと絆を結ぶ「特定の人」、つまり「愛着対象」になる人です。さらにキーパーソンを中心に、サブの支援者、逃避行動の受入れ者等の役割分担をして、分かりやすい支援体制を構築します。キーパーソン以外が勝手に関わると、刹那的な関わりの快感を求める「愛情のつまみ食い現象」を起こすので注意が必要です。

通常の学級における愛着障害支援

支援のポイントを示します *2。さらに詳しい対応については *1 や*3 を参照ください。

1 教師と児童・生徒との「1対1」の信頼関係を築く

いつも個別対応ができるわけではありませんので、この一瞬はあなたが特別というように特別感を意識した個別のかかわりをします。「1対1」の関係づくりがクラスづくりの土台です。登校時、朝の会が始まる前、集団活動が始まる前、終わりの会の後などの時間を活用して関係づくりをします。

こんな言葉がこどもの心を開く・・・

「先生はあなたのことを大切に思っている」

「せっかく縁があって出会えたのだから大切にしたい」

叱るときも「大切なあなただからこそ、頑張してほしい」



1対1 本気で向き合う

2 筋が通った指導をする

児童・生徒の要望に応えることは必要ですが、愛着障害の児童・生徒には頼りなく御しやすいと捉えられます。受容は必要ですが、「筋が通った指導」により、先手の指導をします。担任は児童生徒にとってわかりやすいルール（何をすれば褒められ、何をしてはいけないか）を明確に示すことが大切です。



3 愛着障害の児童・生徒がいるクラスの授業づくり

(1) 落ち着く儀式

深呼吸や黙想などの儀式を授業のスタートや終わりに行うことは効果的です。

(2) 個別対応のシナリオをつくる

授業が始まったらどの児童・生徒に声かけ個別のかかわりをするか、作業に誘うか、次にどの子に声かけするかなど、シナリオを決めて授業に入ります。

(3) 授業の構造化

授業を「全体学習」、「個別学習」、「ペア学習とグループ学習」の三つに区分する構造化が有効です。例えば、45分授業では「全体5分→個別15分→全体5分→ペア（グループ）15分→全体5分」。個別学習ではキーパーソンが個別に支援をするチャンスです。

4 通常の学級からの逃避への対応

保健室や特別支援学級は児童・生徒の安全基地として機能しています。教室に行くエネルギーを作るためには、その部屋内で小さなミッションを与えそれに成功すれば褒めて意欲のエネルギーを与えます。ただし、児童・生徒がその部屋の主になってしまい、支援に入る教師よりも優位な立ち位置になることがあります。常に主導権を意識した別室支援を心がけます。

【参考文献】 『愛着障害は何歳からでも必ず修復できる』 米澤好史 *1

『通常の学級で行う「愛着障害」サポート』 米澤好史・松久眞実・竹田契一 *2

『愛着障害・愛着の問題を抱えるこどもをどう理解し、どう支援するか』 米澤好史 *3